
グラハム in ファンタジー

黒の契約者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

グラハム in ファンタジー

【Nコード】

N0872S

【作者名】

黒の契約者

【あらすじ】

テンプレで異世界でグラハム？わかります

神襲来

拝啓 お母様

突然ですが私は真つ黒な空間にいます

ここはどこか自分でもわかりません。ただ…一つだけ、一つだけ
言わせて貰っていいですか。目の前に何かが…土下座してる何か
がいます。

が、自分には関係ナイト!? 思うのでシカトをかましておきたいと
思います。

ここに来る前はたしか夕涼みに外へ電車を見ていました。その後、
黒い弾丸らしき物が眉間のあたりにぶつかった所まで覚えて
います。よくよく考えてみると、あれは、間違いなく“石”ですね。
電車が線路にあった石を跳ね上げ、眉間にシュートしてきました。

2

あれですね。

ヘッドショット。

今頃、私をk i e e した電車は、頭上にカエルマークが付いている
でしょう。気が向いたら探してやって下さい。しかし、電車にヘッ
ドショットってどんな確率でしょう。

自分にもし18才以上の彼女ができそれがロリで、貧乳でしかも旧
スクール水着が似合うコレは最早、天文学的なものと思われる。ま
あ、ママン安心して下さい。1人では逝きません、目の前に土下座
している奴をとりあえず連れて逝きます。大丈夫、目の前にいるのは

“とりあえず”

女らしいから安心して下さい。私も死んでもなお、「掘った」、「掘られた」までの心配をかけません。
では、ママン逝ってきます。

By より

「やっと話^{ガシッ}：聞いてくれたかと思ったら、アイアンクローはちょっと……ギヤ〜」

私はとりあえず、アイアンクローをかましてやった。

目の前の女は“女”であったが“幼女”ではなかったので容赦はしなかった…

「私は認めん！！女と幼女は別の生き物だ。私は、断言する。もし、世界はそれを否定するなら私は……世界を敵にまわす！！」

絶対の自信、王たる威厳（自称）を放ちながら高らかに宣言した。

そして私は、アイアンクローをとき、女を放り投げた

「ちょっとそれ、レディーに失礼じゃない」

不満がありそうに埃を叩きながら立ち上がり、両手を腰にかけて、いかにもポンポンという効果音が似合いそうに怒っていた。未熟者（ノーマルな人）なら、その仕草に可愛いと思ってしまっただろう。しかし、若くから覚醒した私はさつきも断言した通り、女と“幼女”を全く違う生き物と考えている。

（例）

? キャベツとレタス

? ザクとグフ

? 衛 士郎とアー ヤー

というぐらい違うと言ってもいいだろう

? は好みによるが、結構別れる。

? は、搭乗者本人が

「ザクと違うのだよ。ザクとは」と言っているから違うはず…

? は…ね。アーチーは好きだけど衛宮 郎はちょっとね、と言
うほど好き嫌いが別れているハズだ。

私もそれと同じ事だ、別に自分が変人ではないと確信している。…
多分そのはずだか？

少し、熱く語りすぎて話はそれだが、目の前の女をどのようにして、抹殺するかを考えるとしよう。目をつぶり、腕を組み考えていると、さっきまで『返事はない。ただのしかばねのようだ状態』から復活したのか頭を抑えながら女が話かけてきた。

「イッタタ、なによ！？あなたを転生させてあげるってのにアイアンクローっておかしくない(怒)

ふう、まあいいは私大人だから我慢してあげる。テンプレよテンプレしかも好きな能力付き。」

とウインクしてきたが私の心は全くといって動じない。私の心はまるで剣のように堅かったからだ。どの位硬いかというと、

I a m h e a r t o f m y s o u r d

とどこかの固有結界を出来るくらい堅かったからだ。

この剣とゆう名の心に対抗できるのは、幼女と呼ばれる楯のみ。

「ちょっと、聞いてる？私があなたを、異世界に送ってあげるって言うてるの！！それと、私も一緒に行くから。あと、試しに能力使ってみても良いわよ。」

今度はえっへんというばかりに胸をはって胸を強調しているのかは

分らんが、やはり私は動じない。

大事だから、三度言うが、私は幼女と女を……もう流石に辞めてお
こう。

とりあえず

「断る（キツパリ）能力はありがたくいたただくがお前はただけん
！！私の隣を歩いていいのは幼女だけだ！！」

「なんでよ！？私みたいな巨乳美少女が嫌だっというのよ！第一あ
なたはねー……」

（。。。）

なんか独り言激しくて目の前の女（以後“肉”と表記）が可哀想に
思いますが無視して能力を使つとしましょう。

こんな時役立つ能力は…

「やってみるか

イメージしろ…最強！！イメージしろッ！！

『絶対なる因果』（Config）コンフィグ

何もなかった空間にテキストが出現し、私はスツとカーソルをあわせる。未読スキップに…そしてOK。

その瞬間、目の前の肉（元“女”）がテレビのこま送りのように早送りになっている。…正直乳が高速移動してブルンブルンなっていたのが少し気になった。

話の内容がわからないが私には関係ない。

「幼女の言葉以外、なんの重みも感じないわ！」

（例：お兄ちゃん）

そしてある程度、時間がたつと、女は話を止め、3つの選択肢を出してきた。

『関voice』

『中村voice』

『若本voice』

（！！！！！！！）

なんだ、これはテンプレ用の声なのか！そうなんだな！？

そうするとどれにしよう…自分の声で、若本さんはちょっとね。関

さんはちょっと熱いイメージがあるかな。

? シャイニング〜フィンガー…

? おのれおのれおのれおのれおのれおのれおのれ

など(作者のイメージ)

…やっぱり、中村さんかな…

『関voice』

『中村voice』

『若本voice』

中村voiceにカーソルを合わせクリックした。ある程度進むと、また選択肢が出てきたのは同じだがさつきと違うのはどこかで聞いたことのあるBGMが流れ出した。その選択肢には、

『それではダメだ!!』

『これでいいんだ』

(!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!)

(これは、よくk y作品とかの最後あたりに出る選択肢ではないか!?!…よく聞くと聞き覚えがあるBGMが証拠だ。どうする、自分分は中村voiceがいいんだが多分、『これでいいんだ』を選ん

だ場合 b a t なエンディングに逝くような気がする)

バックログで、過去のテキストをさかのぼったが、肝心な部分できれていた。

「クツ、これが未読スキップの弱点か。」

多少、運任せで

『それではダメだ!!』

『これでいいんだ』

を選んでいた。クリックした瞬間、あたりは光に包まれ何処からか

「絶対惚れさせてやるんだから」

という声が聞こえるか否や、目の前風景ががりと変わりそこは森の中であるが、あたりは壊れた馬車、血まみれの死体、明らかに人ではない二足歩行で棍棒を持ったモンスターがいた。

私は少し生存がないか辺りを見回すと馬車の陰に女の子だろうか。そこにいたの怯えて小さくなっている幼い女の子だった

私の異世界での初めの一言はその幼女を見て無意識にでた言葉だった

「逢いたかった…逢いたかったぞ

“ ガンダム ”

「あれ？」

肉 side

「なによあいつ調子に乗っちゃって…私が土下座つてすごい事件よ。星を間違つて消しちゃった」と同じぐらい事件よ全く…少し格好いいからってノノノ私が付いていつてあげるって言うのに断るってそりゃないよー。こうなったら幼女loveの記憶を消して巨乳loveにしようかしら…。うんそれがいいわ。よし早速記憶をいじって私も異世界行くわよ」

数分後

「きゃー失敗した

「 ㄅㄆㄇㄉㄊ...」

神襲来（後書き）

主人公は肉の暗黒魔法につき幼女についての記憶をうしなってしまうが彼の執念か

幼女 ガンダム

と呼び、いような執着を見せる

同時に異性についての考えても治ったので巨乳oke

幼女の記憶を取り戻せるか

『逝けガンダム』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0872s/>

グラハム in ファンタジー

2011年10月8日02時36分発行